

景況実感調査(2020年12月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 営業日は20日と、対前月比1日増も実稼働は1日減となり売上、数量共に大幅減となった。特に薄板は市中在庫が逼迫しており、紐付き品の納期遅れも1か月を超えるものもあり、店売り向けはメーカーの申し込みスキップも重なり、正常化のスケジュールが見えない中、2月いっぱい厳しい商売となりそう。商材と粗利の確保、与信の管理と資金繰り、多難な年明けとなった。
- ② 在庫が作れないし、母材のUPも芳しくない。手持ちを大事に販売するのは勿論だが、選別受注と供給量を限定せざるを得ない。外出禁止の中、値上げに苦勞しそう。紐付きを上げて頂きたい。
- ③ 12月に入り材料不足が一気に表面化してきており、在庫問い合わせの電話が増えた。ただし、メインの建築需要が増えた訳ではなく、高炉から原板が出てこない、輸入材の入荷が少ないためなので、先々の不安は残ったままである。
- ④ 12月は前月比横這い、前年比微減とコロナ前の水準までにはしばらく時間がかかりそうである。市況はスクラップ高、店売りは無い物高と需給バランスが崩れ、しばらくは高水準で推移しそうである。
- ⑤ メーカーの品薄がまだ続きそうで店売り在庫もあまり無く、3~4月まで稼働にもかなり影響しそう。

中板

- ① 12月は稼働日数の減もあって前月より加工量は減少したが、その要因としては、供給がタイトになってコイルが無いこと、及び10~11月のタイト感から来る仮需的な動きに一服感が出たことではないか。今後の供給も依然として厳しいことが予想され、市況もナイモノ高が続き上昇しているが、実需の堅調要因によるものとはまだ確信できず、供給サイドによる要因が高いとみられるだけに、今後も上昇が続くのかは疑問である。また、市況上昇が続いたとしても、メーカーの更なる店売り価格の値上げが迫っており、その後のメーカーと大手ユーザーとの値上げ交渉が不調に終われば、流通に負担が来ることは間違いなく、メーカーには、過去の経験も活かして的確な対応が望まれる。
- 12月は稼働日数の減もあって前月より加工量は減少したが、その要因としては、供給がタイトになってコイルが無いこと、及び10~11月のタイト感から来る仮需的な動きに一服感が出たことではないか。今後の供給も依然として厳しいことが予想され、市況もナイモノ高が続き上昇しているが、実需の堅調要因によるものとはまだ確信できず、供給サイドによる要因が高いとみられるだけに、今後も上昇が続くのかは疑問である。また、市況上昇が続いたとしても、メーカーの更なる店売り価格の値上げ迫っており、その後のメーカーと大手ユーザーとの値上げ交渉が不調に終われば、流通に負担が来ることは間違いなく、メーカーには、過去の経験も活かして的確な対応が望まれる。
- ② 12月後半、東京製鉄1月契約販価一律1万円値上げ。日本製鉄、国内店売り1月積受注見送りと、相次ぐ発表で先高感、タイト感が増し相場急騰となった。高炉の値上げを考えると、足下から価格転嫁せざるを得ない。

厚板

- ① 販売量は前月比では若干増加したが、前年同月比では 2 割減の低迷が続いている。産業機械ユーザーの稼働はやや持ち直しの兆しがみられるが、増産の目論見が実現するか否かは予断を許さない。建機関連ユーザーも回復傾向にあるものの、各社の足取りの強さには差がある。土木案件は基本的に手堅く推移しているが、12 月は案件の端境期にて低迷した。素材販売は極めて低調だった 11 月と比べると 12 月は回復したが、供給不足による仮需が中心で、実需は低位横這い。前年同月比でも大きく減少したままだ。厚板分野では、ミル側の影響を受けて納期が延びていることから足下では一部で減少傾向にある在庫もあるが、建築需要の不振が続いており、薄板ほどの逼迫感はない。
- ② 鋼材市況が上昇している。

一舟受開金鋼

- ① 売上、粗利、売上数量は前月比増に転ずるも 1 割程度で、回復基調への転換月となるかは不明。電炉製品の大幅な値上げという厄介な問題を抱えての越年だが、コロナによる需要減少下につき値上げ受け入れは可能。単に鉄スクラップ価格の高騰だけでなく、中国当局の政治的側面も要注視。

II 開金鋼

- ① 12 月の倉出しは減少。前年同月比でも減少。上旬は前月と同様に引合いがあったが、中旬以降は減少し、中小案件も少なく一服状態。メーカー値上げの転嫁を早急に実行し、採算重視の販売に努める。
- ② 12 月の数量については、販売価格の重視と季節的需要期から脱する時期でもあり、減少は想定済み。一方、市況についてはスクラップの高騰によるメーカーの想定を上回る値上げ発表があり、需要動向、他社の動向とか言っていられない状況により、やっと本格的に上伸も、昨年からのメーカー値上げ幅の転嫁には程遠く、今後も量を追わず、市況の上伸に注力していくしかないと思われる。

異形棒鋼・鉄線

- ① スクラップ市況の急騰を受け、丸棒メーカーは製品価格の値上げを半月ごとに発表。荷動きが不振の中ではあるが、あつという間に 12 千円/トンの値上げを実施した。日々の取引量は少なく、1～3 月は需要不振が心配だ。
- ② 11 月の動きより 12 月は 20% 落ち、1 月も横這い。単価は 1 月初めより 3 円/kg 上げ、1 月 16 日にももう 3 円/kg 上げ。
- ③ 依然として低迷しており荷動きも悪い。鉄筋の仕入れも上昇しており先行き不安である。

平鋼

- ① メーカーの大幅値上げが発表され、一部で仮需も発生したが、非常に少ない。思った以上に実需が少ないのではないかと。値上げ幅が大きすぎて転嫁が全く追いつかない。更に来月も値上げする可能性が高く、早急に価格転嫁を行っていく。また、緊急事態宣言発令もどう影響するか注視している。

車巻開金鋼

- ① 原材料のタイト感が急加速。材料不足から値上がりや数量確保が課題。
- ② メーカー出荷が悪くなってきており、そろそろ主要サイズの歯抜けが出てしまうような状況なので、しっかり値上げをしていきたいと思う。

鋼管

- ① 前年比ほぼ横ばいであったが、日割りでは前月に比べて減少。前月の勢いを保てず、低調な推移となっている。今後の値上げ対策に苦慮している。
- ② 一部のサイズでメーカーからの入荷遅れが出ているが、荷動きは横這い低調で、逼迫感はない。

構造用鋼

- ① 需要の復調は自動車関連、小中型建機、大型建機、一部工作機械、産業機械に波及しつつあるが、紐付きが中心となっており、店売りは厳しい状況が続いている。在庫量は調整により適正化してきており、一部では在庫補充の動きも聞こえている。一部で安値も散見されるが、市況は現行横這いで推移を見込む。
- ② 自動車関連及び一部建機関連に回復が見られるものの、店売りの動きとしては引き続き低調。鉄鋼メーカーの何社かが値上げを発表している。今後の動向が注目される

磨棒鋼

- ① 自動車向け紐付き品の急激な需要回復により、数量ベースでは昨年並みの出荷に戻りつつある。ただし、小口の店売りについては、昨年比8割程度にとどまっている。今年度中は現状維持できそうな様子だが、春先以降の動向が不透明。来年度の予算作成に頭を悩ませている。

その他

<鉄線・ナマシ>

- ① 売上等が増加しているのは、鉄線類の値上げ前の駆け込み需要のためだ。

<鉄スクラップ>

- ① 12月のスクラップ相場は急騰。中国のスクラップ輸入解禁を意識しての上げもあるが、値段が一人歩きしている状況。北京オリンピック前以来、かなりインパクトのある動きだった。世界中が未だコロナの感染拡大で混乱している中、確信的な情報に乏しく、全く先が読めない。不安要因が多いことは確かで、日々の情報に振り回されないよう、しっかりと商売をしていきたい。

<金属表面処理>

- ① 12月は紐付きの扱い量数量は予定通りとなったが、物件物は工程遅れにより年明けから開始。スポット受注も思ったより伸びず、25%の扱い量減となった。1月は物件物、プラント関係が多くあることから、スポットの扱い量によっては安定的な操業で推移できそうである。